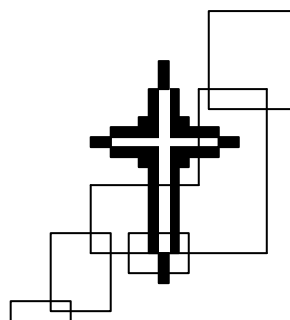


日本のための とりなし



わが国のために祈りましょう
ニュースレター4月号
2003年4月6日発行

日本のためのとりなしの会
事務局：〒228-0802
相模原市上鶴間6-1-17 皆川方
TEL042-747-5703
FAX042-746-2119
http://www.Christ-ch.or.jp/
*振替：00270-7-6421

委員長：皆川 尚一(神奈川県)
委員：友納 徳治(福岡県)
手束 正昭(兵庫県)
林田 金弥(神奈川県)
行澤 一人(大阪府)
久保 有政(埼玉県)
釘宮 義人(大分県)

長谷川 乃武男(東京都)
協力委員：
町田 誠(千葉県)
中原 耕平(千葉県)

日本宣教論序説 (第5回)

日本に伝来したキリスト教
〔第5波〕1859年から1945年まで
プロテスタント・キリスト教、その他の渡来()
ヨハネ皆川尚一

《プロローグ》

「大日本帝国の建設」について

江戸時代後期(1779年～1867年)において、イギリス・アメリカ・ロシア等の強大な帝国主義的諸国からの軍艦や商船等が日本国に接近して開国をうながしました。このような諸外国からの強要は、鎖国体制の下にある日本全国にはなはだしい脅威をもたらしました。

初めの頃から日本は朝廷が発した鎖国の継続と攘夷(じょうい)の基本方針に従って、徳川幕府が外交接衝を進めて来ました。しかし、諸外国からの圧力は次第に強さを増し、幕府はだんだんに開国の方針へと傾いて行き、ついに天皇の意向に反して米・英・露の各国と和親条約を締結しました。(1854年)。この頃には世界情勢についての知識が日本全国の武士や公卿などの指導者階級だけでなく農民や商人などの間にもどんどん広まって行き、いわゆる新しい時代の先覚者たちが日本社会の各層から輩出(はいしゅつ)して来ました。こうして、弱体化した無能な官僚組織

となった幕府を倒して、天皇を権威の中心とした強力な近代国家を建設しようとする意欲が先覚者たちの間に結集され、明治維新が起こりました。それも、初めは維新の推進力となった薩長藩閥政府が主導権を握りましたが、1889年には大日本帝国憲法、皇室典範、議院法等の必要な法制が整備され、日本は明治天皇を中心とした立憲君主国である「大日本帝国」として建てられ、欧米帝国主義列強諸国と肩を並べることを目標に歩みだしたのであります。実は日本国の近代化を進める整備は、すでに資本主義経済へ移行するステップが江戸時代から踏まれていたのです。鎖国時代は日本の孤立時代ではなく、蝶となって飛び立つための「さなぎ」の時代であったと言えるでしょう。

「万国公法」について

大日本帝国が建設されたことによって、日本が天皇独裁制の侵略国家となったわけではありません。日本が目ざしたのは半独立国家ではなく、真の独立国家として国際法上でも認められることです。

19世紀には西欧列強によって決められた「万国公法」という法律がありました。これは現在の国際法に相当するものです。ちなみに明治維新の際、戦いに敗れた幕府家臣団を率いて北海道に渡った榎本武揚(えのもとたけあき)が、蝦夷(えぞ)共和国を建てるた

めの拠りどころとしたのがこの万国公法でした。その万国公法によれば、ヨーロッパ諸国は文明国だから「自主の国」とされ、日本、支那、ペルシャ、オスマン・トルコなどは半文明国だから「半主の国」とされ、それ以外はすべて未開の土地とされました。未開の地に先住民がいて、独自の自治体制を持っていても万国公法にのっとれば「無主の地」となって、先に占領した国が自国領に編入するか、保護国として管理する権利を持つこととなります。まことに手前勝手な白人独り勝ちの法律ですけれども、これが19世紀の国際法でありました。清国や朝鮮は、あくまでも旧来の中華朝貢体制を守りぬこうとして失敗しましたが、日本は万国公法にかなった自主の国となるべく全力を尽くして頑張ったわけです。（以上「日本がつくったアジアの歴史」黄文雄・池田憲彦共著 総合法令刊第26ページより引用）

「天皇について」

戦後しきりに使われるようになった「天皇制」という言葉は、それまで日本の過去の歴史の中では使われたことがありません。天皇の存在は日本歴史の最初からあったし、日本の体質ともいうべきものです。なぜなら、天皇は太古からの日本社会の中心であり、日本人の大多数が天皇の子孫ではないかと思われるからです。筆者のわたしも「清和天皇の子孫」であることがハッキリしていますが、だからといってたいした事ではありません。これが日本の体質なのです。それを「天皇制」が罪悪であり、諸悪の根源だと見なすのは、ヨーロッパの王制と同じようなものだと考えるからでしょう。これは大きな誤解です。他国の王は武力によって支配権を握り、人民を搾取して王の財産を蓄え、ぜいたくな暮らしをして人民の福祉をかえりみないのが共通の特徴です。しかし、日本国の天皇は祭司王であって、神と人との間をとりなし、神の言を告げ、直接統治をせず、統治は大臣か摂政にゆだねるのが普通でした。つまり、国民統合の「象徴」でありました。明治の大日本帝国憲法において、「天皇は神聖にして犯すべからず」と規定されているのは権威のことであ

って、他の条文では、「天皇は内閣及び国会の議決に対して賛成の捺印をしなければならない」と定められています。だから天皇は独裁者でもなければ、専制君主でもありません。事実、第2次世界大戦中は、統合参謀本部が天皇の裁可を経ないで独断で重大な決定を下して、どんどん実行しました。ただし、戦争終結時の混乱の時にだけ、初めて昭和天皇がいのちがけで終戦の決定をし、布告をされたのです。

又、天皇が「神」であると尊ばれたのは、天地創造の主なる神という意味ではありません。元来は、聖書の中にある祭司・預言者が「神の人」と呼ばれるのと似ています。なお、それ以上の意味が出てくるのは、日本神話の中での天地創造の神の位置にあると思われる「天御中主神」から生まれた神々の子孫という意味があるからです。「神々」といっても創造主そのものではなく、神の代理、神に似せてつくられたものと言った意味であって、やはり「神の人」という程度の意味だと考えられます。

しかし、国家非常時の場合には天皇を絶対の神として崇めて服従させようとする権力者たちが、天皇の意向に反して天皇崇拜を人々に強制したことは罪悪といわねばなりません。

戦後マッカーサーのGHQで日本の占領政策を担当したモルデカイ・モーゼ（Mordecai Moses）氏は、日本の国体・神道・軍力などに精通した人ですが、その著書「日本人に謝りたい - あるユダヤ人の懺悔 - 」日新報道刊の中でこう言っています、「君民共治は日本の天皇と国民の間にもみ存する理想的な政治形態である。これがある限り、日本の共産主義化は困難であると判断したユダヤ勢力は『天皇制』を絶対悪として宣伝し始めたのである」と（同書 第29ページ）。

以上述べた通り、日本が明治天皇を中心とした立憲君主制度により「大日本帝国」として発足したことは、それ自体、時代の流れに即応したもので、初めからアジア諸国の侵略を企んでいたわけではありません。日本は近隣の支那大陸や朝鮮半島に対する帝国主義列強の侵略政策がいかにすさまじいものである

かを見て、自分自分を守るために富国強兵策をとらなければならなかったのです。そうではなければ、たちまち白人たちの餌食になってしまうでしょう。そうした世界情勢であったことを無視して、日本は平和主義、民主主義の共和国を造るべきであったなどと考える人は、現実から離れた空想的理想主義者だというほかありません。明治の日本は日清戦争(1894~5)、日露戦争(1904~5)を経

験して行く過程を通して、アジア諸国を白人支配から解放して大東亜共栄圏を作るというヴィジョンに向かって進んで行くことになるのです。こうした情勢の中に入って来たキリスト教が日本国民の中に、どのように受け入れられて行ったのかを、次回から解説したいと思います。(次号に続く)

以上

地域別とりなし祈禱会

1. 北海道

札幌市 : キリスト公会 札幌グレイス教会 皆川尚一牧師
〒001-0032
札幌市北区北3条西5丁目3-27
TEL 011-717-1801 毎月第2、第4日曜日午後2時

2. 岩手県

水沢市 : ザ・リバイバル・東北祈りの家 高橋範明
〒023-0813 水沢市中町26 レストラン・プレイズ
TEL 0134-62-3561 毎月第3日曜日 午前7時00分

3. 埼玉県

蕨市 : 蕨とりなし祈禱会 鷺谷世嗣兄
〒335-0003 蕨市南町3-3-12
TEL0484-42-0967 毎月祝祭日午後2時

4. 東京都

東京都内 : 東京中央とりなし祈禱会 皆川尚一牧師
*会場 早稲田奉仕園セミナーハウス(東京都新宿区西早稲田2-3-1)
*連絡先 〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間6-1-17 皆川尚一牧師
TEL042-747-5703、FAX042-746-2119 毎月第4月曜日午後6時30分~9時

東京祈禱会 山浦もと姉
*会場 キリスト教婦人矯風会館B-1(新宿区百人町2-23-5)
*連絡先 〒350-0812 埼玉県川越市下小坂612 主の園3-25 山浦もと姉
TEL0492-34-7049,FAX0429-31-5552 毎月第1月曜日午後1時30分

5. 神奈川県

横浜市 : 聖書とお茶の会 吉田久子姉
〒241-0836 横浜市旭区万騎が原8-9 吉田方
TEL 045-363-5657
毎週金曜日午後2時
相模原市 : キリスト公会相模大野教会 皆川尚一牧師
〒228-0802 相模原市上鶴間6-1-17
TEL 042-747-5726,747-5703 FAX 746-2119
URL <http://www.Christ-ch.or.jp/>
毎月第2木曜日午前10時15分

6. 長野県

小県郡 : 丸子町キリスト教会 松吉理枝子牧師
〒386-0404 長野県小県郡丸子町上丸子川原1710-1
TEL 02684-2-5264 毎週水曜日午後7時30分

7. 静岡県

静岡市 : リビングウエイ・チャーチ リッキー・ゴードン師

〒420-0841 静岡市上足洗4丁目6-16-7
 TEL 054-248-4058 毎月第1日曜日午後2時

8. 京都府

京都市 : キョート・プレイヤーグループ シスター・イヴァ・フランシス・チェレギーノ
 〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル カトリック会館5F
 TEL 075-241-3867 毎週火曜日午後7時 英語の祈禱会

9. 大阪府

寝屋川市:日の出キリスト教会 滝本千歳牧師
 〒572-0835 寝屋川市中木田町26-9
 TEL&FAX0720-22-9232 毎月第3木曜日午後2時

9. 兵庫県

高砂市 : 日本キリスト教団 高砂教会 手束正昭牧師
 〒676-0015 高砂市荒井町紙町1-34
 TEL 0794-42-4854 FAX 42-4878 毎月第4水曜日午後9時30分~12時

10. 福岡県

福岡市内:福岡新生キリスト教会 竹田 浩牧師
 〒811-1344 福岡市南区三宅3-33-1
 TEL 092-561-4232 毎朝午前5時00分

伊都キリスト教会 友納徳治牧師
 〒819-0167 福岡市西区今宿井尻12-4-1
 TEL 092-807-9080、FAX 807-2298 毎月第3水曜日7時30分

11. 大分県

別府市:フルゴスペル イエスキリスト教会 永野誠治牧師
 〒874-0933 別府市野口元町10-1
 TEL & FAX 0977-26-3692
 e-mail:fg.jesus@poppy.ocn.ne.jp
 毎週金曜日午後7時30分

12. 沖縄県

那覇市 : ホサナキリスト伝道所 喜瀬慎秀牧師
 〒900-0031 那覇市若狭2丁目9-5 毎週土曜日午後6時
 TEL 098-868-5641

2003年4月号祈りの焦点

(1)継続的課題

1)公明党が連立政権から外され、政界におけるその勢力が著しく減退するように。

又、自民党が見識を取り戻して創価学会に頼らなくなるように祈りましょう。

〔解説〕

* 創価学会は1969年～70年の言論出版妨害事件で世論からすさまじいバッシングを受けました。これを契機として日本の権力機構の中枢に創価學員を送り込む戦略を立てました。その主たる目標は法務省、検察庁、外務省、マスコミ（特に新聞社）等です。この頃その実態を示す一覧表は手に入り難いですが、9年前（1994年1月6日）の週刊文春によれば国会、官庁、マスコミにおける創価大学出身者の数は国会議員〔衆議院：1名、参議院：2名〕、法務省6名、裁判所38名、大蔵省2名、国税庁11名、外務省24名、労働省4名、建設省8名、文部省3名、郵政省3名、北海道開発庁1名、沖縄開発庁1名、厚生省1名、通産省1名、海上自衛隊1名、総務庁1名、＜マスコミ＞毎日新聞9名、日経新聞3名、読売新聞1名、朝日新聞1名、産経新聞1名、通信社2名、ブロック地方紙6名、スポーツ紙1名、NHK1名等ですが、この他に東大、京大卒の信者も入ってきます。

2)カルト集団からの脱会者がキリスト教会に来て救われるように。

〔解説〕

* オウム真理教は麻原教祖ほかの幹部が逮捕された後、一時力を失いましたが、その後上祐（じょうゆう）氏を中心に「アレフ」教団として再建され、その活動が活発になってきたようです。要注意だと思われます。

3)天皇陛下が主イエス・キリストに在って救われ、大いに祝福され、その祝福が遍く日本国民の上に及びますように。また、天皇陛下が世界の諸国民の中にあって、祝福の基として用いられますように。そして、国民が天皇陛下を先達として理解し、尊敬して、国際平和のためにつくすように祈りましょう。

〔解説〕

* 天皇・皇后両陛下の御健康が強められるように。

4)互いに批判し合い、反目し合ってきたキリスト教会とユダヤ人、カトリック、プロテスタント、そしてペンテコステ、および各教派・各教会の間に、悔い改めと和解が起るように。

〔解説〕

* リバイバル新聞3月9日号によれば、イギリスで福音派とカリスマ派が一致したと英国福音同盟理事長ロバート・エイメス師が同紙の記者のインタビューに答えている。

5)マルコーシュ・ミッションの働きが進展するように。また、リバイバル新聞の購読部数が2700部に増えましたので、更に5000部へと増えるように。また、リバイバル新聞の内容が更に充実したものとなるように祈りましょう。

〔解説〕

* マルコーシュ・ミッションは栃木県の山奥に事務所を移転することによって経費節減をはかりました。又、当分の間、単行本は出版せず雑誌「ハーザー」を中心に文書伝道を行うことになったとのことです。

6)TV・ラジオ・新聞・雑誌関係者たちがおごりと偏った報道や人権無視の取材を止め、神を畏れたフェアな在り方をするように。これらに気付いた人が抗議や訂正の声をあげ、日本の見張り人の役を果たすように祈りましょう。

〔解説〕

* マスコミが最近有事法制や個人情報保護法案の審議についてあまり報じないのは、4月13日の統一地方選挙のため国会議員が多忙なので、与野党間では一時休戦との了解がついているためのようです。しかし、いつ抜き打ち的に法案を取り上げて強行採決するかわからない面もあるので、そういうことが起こらないように祈りましょう。

7)日本に亡国の危機をもたらす少子化傾向がくいとめられ、神の御心にかなった増子化対策が社会全体の祝福によって実施されるように祈りましょう。

「神は彼らを祝福して言われた、《生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ》」(創世記 1:28)。

〔解説〕

* 若い男女が結婚し、子供を育てることについて希望の持てる社会になりますように。

(2)時宜的(タイムリーな)課題

1)小泉内閣が神を恐れ、日本の進路を誤ることなく、日本国の独立性を確保すると同時に、国際平和に貢献できるような政治を行うように祈りましょう。

〔解説〕

* 小泉内閣は長期的戦略を持たず、政治・経済・外交・軍事などにおいて、米国や中国の顔色を見ながら場当たりの判断で動いているように見えます。日本の平和と繁栄と幸福を守るのは日本しかないということを知覚して、わが国の知力と気概を結集した長期国家戦略を急ぎ策定すべきであります。

* 小泉内閣で無理ならば、これに代わる強力な指導者の出現を祈らねばなりません。

2) 日本国民全体の中にキリストの福音が広く深く受け入れられて行くように祈りましょう。

〔解説〕

* 明治以来、現代に至るまで、日本のクリスチャンの数は総人口の0.1%にも及ばない状況です。尚、熱く祈りましょう。

* 日本民族総福音化運動についての準備が進行中(責任者:手束正昭牧師)

3) 北朝鮮による拉致問題の解決があくまでも外交上の最優先課題とされ、拉致被害者の家族が日本に帰って来るように祈りましょう。

〔解説〕

* 百人にものぼるといふ被害者も家族も希望を捨てないで解決に向けて闘っていけるように。

* 「拉致はテロだ」ということを外交の前面に押し出して行く必要があるでしょう。

4)現在の金正日政権が崩壊して、北朝鮮が核兵器や生物・化学兵器の開発を速やかに放棄するように祈りましょう。

5)4月13日の統一地方選挙において主の御心に適った人が選ばれるように祈りましょう。

6)日本が日本独自の外交・防衛のビジョンを持つことが出来るように祈りましょう。

7)長引く不況下にあっても、まずクリスチャンが、キリストにあって、この国が神と人にとりて用

いられる未来と夢を握りつづけることができますように。そして、世の人々にも、主にある希望を語り続けることができますように。

〔解説〕

* 日銀や政府当局が真に日本の国益を守り得るような金融財政対策取ってゆけるように。

8)イラクに対する米英軍の侵攻が最小限の犠牲で速やかに終結するように祈りましょう。

9)イスラエルの平和のために祈りましょう。

「見よ、イスラエルを守る者は、まどろむこともなく、眠ることもない」(詩篇 121:4)

〔解説〕

* 自爆テロが完全に停止され、神様の介入によって平和が生まれるように。

* イスラエル人がナザレのイエスをメシアとして受け入れるように。



《会計報告》(2002年12月1日～2003年1月31日)

(単位 = 円)

収 入	金 額	支 出	金 額
献 金	92,540	交 通 費 印 刷 費 資 料 費 郵 送 費 事 務 費 振替手数料 電 話 料	29,120 2,619 23,402 31,650 1,000 400 10,276
小 計	92,540	小 計	98,467
前月繰越	113,659	翌月繰越	107,732
国内活動基金 収入	0	国内活動基金 支出	0
前月繰越金	15,700	翌月繰越金	15,700
国際会議参加基金 収入	0	国際会議参加基金 支出	0
前月繰越金	35,474	翌月繰越金	35,474
合 計	257,373	合 計	257,373

【献金者芳名】(順不同)

高砂教会(兵庫)	2回	佐藤節代(神奈川)	1回
日之出キリスト教会(大阪)	1回	三上和祥(北海道)	1回
相模大野教会(神奈川)	2回	吉田久子(神奈川)	1回
札幌グレイス教会(北海道)	2回	匿名(東京)	1回

【編集後記】

- * ニュースレター2003年4月号をお届けします。
- * 今回のトップレポートも、2月号の続きで、「日本宣教論序説 - 日本に伝来したキリスト教 第5回」[第5波]AD1859年から1945年まで「プロテスタント・キリスト教渡来」()です。
- * 今回はその<プロローグ>のみを載せました。そこでは「大日本帝国の建設」と「万国公法」及び「天皇」についてとりあげました。それはプロテスタント・キリスト教、ロシア正教の渡来と天主教会(ローマ・カトリック教会)の復興が行われた時代背景を出来るだけ公正に説明する必要があると考えたからです。
- * 第二次世界大戦後に出版された近代日本とキリスト教に関する書物のほとんどが明治維新によって近代化された日本国が帝国主義による侵略戦争へと自ら駆り立てて行き、キリスト教会もそれに巻き込まれて行ったという見方をしています。
- * それは甚だしく不公正な見方であると私は考えています。どうしてそのような見方が生じたのかというその原因は三つ挙げる事ができるでしょう。
戦後東京で行われた連合軍による「極東国際裁

判」が日本を侵略国家、犯罪国家として断罪したこと。マッカーサー司令部による日本人骨抜き政策。これは「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム」(戦争犯罪感植付計画)としてGHQの民間情報教育局が実施したもので、日本人に大東亜戦争が侵略戦争であったという罪責感を植付けるために、新聞・雑誌・ラジオ等のマスコミにより繰り返し徹底して行われました。

左翼思想による公教育の偏向。特に日教組を構成する教師たちが戦後50年にわたり日本国の歴史を「天皇制軍国主義によるアジア侵略の歴史」として青少年に教えてきたこと。

- * キリスト教会には、カトリックでも、プロテスタントでも上記のような左翼的歴史観をもつ人々が少なくないようですから、別の見方があるということを知って頂きたいと思います。

- * 久保有政牧師の発行しているキリスト教雑誌「レムナント」の4月号と5月号に松山高吉著「神道起源」現代語訳皆川尚一が連載されることになりました。

(ヨハネ 皆川尚一記)

《次回日本のとりなし委員会予告》

日時：2003年5月19日(月)12時
場所：キリスト公会相模大野教会

